

大学番号：私立151

[平成31年度設置]

計画の区分：大学の設置

認可

長岡崇徳大学 看護学部 看護学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人悠久崇徳学園

令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 企画・連携課

職名・氏名 カチヨウ ウチヤマ タカアキ
課長 ・内山 卓秋

電話番号 0258-46-6666

F A X 0258-86-6637

e-mail soumu@sutoku-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	25

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人悠久崇徳学園

(2) 大 学 名

長岡崇徳大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒940-2135

新潟県長岡市深沢町 2 2 7 8 番地 8

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を () 書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(タミヤ タカシ) 田宮 崇 (平成26年7月)	該当なし	該当なし
学 長	(モリ ヒロシ) 森 啓 (平成31年4月)	該当なし	該当なし
学 部 長	(ナカムラ エツコ) 中村 悦子 (平成31年4月)	該当なし	該当なし
学科長等	(ナカムラ エツコ) 中村 悦子 (平成31年4月)	該当なし	該当なし

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を () 書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係)	4年	80人	該当なし 人	320人	該当なし

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	80 — (—) [—]	人 — (—) [—]	80 — (—) [—]	人 — (—) [—]	0.62倍	—	該当なし
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	94 (—) [—]	— (—) [—]	93 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	88 (—) [—]	— (—) [—]	91 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	82 (—) [—]	— (—) [—]	87 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	43 (—) [—]	— (—) [—]	58 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A							0.53		0.72				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	40 [－] (－)	－ [－] (－)	58 [－] (－)	－ [－] (－)	該当なし
2 年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	40 [－] (－)	－ [－] (－)	
3 年次					－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
4 年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計	－ [－] (－)		－ [－] (－)		－ [－] (－)		40 [－] (－)		98 [－] (－)		

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成28年度	人	人	平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	43 人	3 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	3 人	0 人	就学意欲の低下(3人)
令和2年度	98 人	0 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
合 計		3 人		3 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

令和元年度の退学者数(a) / 令和元年度の在学者数(b) = 3 / 43 = 6.97 %

【令和2年度】

令和2年度の退学者数(a) / 令和2年度の在学者数(b) = 0 / 98 = 0 %

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 教育 科目	情報処理法	1前	1									1
	情報活用法	1後	1									1
	統計分析法	3前	1									1
	問題解決法	1後		2								1
	英語Ⅰ	1前	2									1
	英語Ⅱ	1後		2								1
	日本語Ⅰ	1前	1									1
	日本語Ⅱ	1前		1								1
	日本語Ⅲ	1後		1								1
	日本語Ⅳ	4前		1		1						
	中国語	4前		2								1
	韓国語	4前		2								1
	地域活動論	1前		2								1
	コミュニケーション論	1後	2									1
	リーダーシップ論	4後		1		1						
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1						
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1						
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1						
	発達心理学	1前		2								1
	生命倫理学	1後	2									1
	健康スポーツⅠ	1前		1								1
	健康スポーツⅡ	1後		1								1
	歴史と文化	2後		2		1						
	民族と宗教	4後		2								1
	自然環境論	1後		2								1
	日本国憲法	1後	2									1
	福祉と保障	1後		2								1
	経済と政策	4後		2								1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1					
	スタディスキルズ	1前	1				3					
	看護教育のための生物学	1前			1							1
	看護教育のための化学	1前			1							1
小計(32科目)	-	14	31	2	5	1	0	0	0	0	17	
専門 基礎 科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2									1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2									1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1									1
	栄養学	1後	2									1
	感染免疫学	2前	2									1
	疾病治療論Ⅰ(循環器)	2前	1									1
	疾病治療論Ⅱ(呼吸器・消化器)	2前	1									2
	疾病治療論Ⅲ(内分泌・腎・代謝・婦人科)	2前	1									2
	疾病治療論Ⅳ(造血器・運動器)	2後	1									2
	疾病治療論Ⅴ(脳神経・精神)	2後	1									2
	病理病態学	4後		1								1
	薬理学	2前	1									1
	保健統計学	2後	2									1
	保健医療福祉行政論	1後	2									1
	公衆衛生学	2前	1									1
	看護関係法規	4後	1									1
	疫学	2後		2								1
小計(17科目)	-	21	3	0	0	0	0	0	0	0	16	

【令和2年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 教育 科目	情報処理法	1前	1									1
	情報活用法	1後	1									1
	統計分析法	3前	1									1
	問題解決法	1後		2								1
	英語Ⅰ	1前	2									1
	英語Ⅱ	1後		2								1
	日本語Ⅰ	1前	1									1
	日本語Ⅱ	1前		1								1
	日本語Ⅲ	1後		1								1
	日本語Ⅳ	4前		1		1						
	中国語	4前		2								1
	韓国語	4前		2								1
	地域活動論	1前		2								1
	コミュニケーション論	1後	2									1
	リーダーシップ論	4後		1		1						
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1						
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1						
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1						
	発達心理学	1前		2								1
	生命倫理学	1後	2									1
	健康スポーツⅠ	1前		1								1
	健康スポーツⅡ	1後		1								1
	歴史と文化	2後		2		1						
	民族と宗教	4後		2								1
	自然環境論	1後		2								1
	日本国憲法	1後	2									1
	福祉と保障	1後		2								1
	経済と政策	4後		2								1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1					
	スタディスキルズ	1前	1			3						
	看護教育のための生物学	1前			1							1
	看護教育のための化学	1前			1							1
小計(32科目)	-	14	31	2	5	1	0	0	0	17		
専門 基礎 科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2									1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2									1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1									1
	栄養学	1後	2									1
	感染免疫学	2前	2									1
	疾病治療論Ⅰ(循環器)	2前	1									1
	疾病治療論Ⅱ(呼吸器・消化器)	2前	1									2
	疾病治療論Ⅲ(内分泌・腎・代謝・婦人科)	2前	1									2
	疾病治療論Ⅳ(造血器・運動器)	2後	1									2
	疾病治療論Ⅴ(脳神経・精神)	2後	1									2
	病理病態学	4後		1								1
	薬理学	2前	1									1
	保健統計学	2後	2									1
	保健医療福祉行政論	1後	2									1
	公衆衛生学	2前	1									1
	看護関係法規	4後	1									1
	疫学	2後		2								1
小計(17科目)	-	21	3	0	0	0	0	0	0	16		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 科目	看護学概論	1前	1			1					
	看護援助論	1前	2			1		1			
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1			
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1			
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1			
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		2	1		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		2	3		
	チーム医療論	1前	1			1		1			1
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			2		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1			
	精神看護学実習	3後	2			3		1			
	地域包括ケア論	1前	1			1		1			1
	在宅看護学概論	2前	1			1			2		
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開論 実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織の 支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 科目	看護学概論	1前	1			1					
	看護援助論	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		1	3		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		1	5		
	チーム医療論	1前	1			1		1			1
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			2		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		0	1		
	精神看護学実習	3後	2			3		0	1		
	地域包括ケア論	1前	1			1		1			1
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開論 実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織の 支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1			1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	2		
	統合実践実習	4前	2			12	2	4	5		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			13	2	4	5		
	看護実践力演習	4後		1		1					
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		2					
	小計(63科目)	-	69	28	0	13	2	4	5	0	3
合計(112科目)		-	104	62	2	14	2	4	5	0	34
卒業要件及び履修方法											
基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。 【履修科目の登録上限:45単位(年間)】 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(126単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1			1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	3		
	統合実践実習	4前	2			12	2	3	7		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			13	2	3	7		
	看護実践力演習	4後		1		1			1		
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		2					
	小計(63科目)	-	69	28	0	13	2	3	7	0	3
合計(112科目)		-	104	62	2	14	2	3	7	0	34
卒業要件及び履修方法											
基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。 【履修科目の登録上限:48単位(年間)】 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(126単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎 教育 科目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	英語Ⅰ	1前	2								1
	英語Ⅱ	1後		2							1
	日本語Ⅰ	1前	1								1
	日本語Ⅱ	1前		1							1
	日本語Ⅲ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1		1					
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1		1					
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1					
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1					
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1					
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							1
	歴史と文化	2後		2		1					
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1				
	スタディスキルズ	1前	1			3					
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計(32科目)	-	14	31	2	5	1	0	0	0	17
専門 基礎 科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療Ⅰ(循環器)	2前	1								1
	疾病治療Ⅱ(呼吸器・消化器)	2前	1								2
	疾病治療Ⅲ(内分泌・腎・代謝・婦人科)	2前	1								2
	疾病治療Ⅳ(造血器・運動器)	2後	1								2
	疾病治療Ⅴ(脳神経・精神)	2後	1								2
	病理病態学	4後		1							1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
	保健医療福祉行政論	1後	2								1
	公衆衛生学	2前	1								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計(17科目)	-	21	3	0	0	0	0	0	0	16

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護学概論	1前	1			1					
	看護援助論	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		1	2		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		1	4		
	チーム医療論	1前	1			1		1			1
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			2		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		0			
	精神看護学実習	3後	2			3		0			
	地域包括ケア論	1前	1			1		1			1
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開論 実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織の 支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1			1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	3		
	統合実践実習	4前	2			12	2	3	6		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			13	2	3	6		
	看護実践力演習	4後		1		1			1		
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		2					
	小計(63科目)	-	69	28	0	13	2	3	6	0	3
	合計(112科目)	-	104	62	2	14	2	3	6	0	34
卒業要件及び履修方法											
基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。 【履修科目の登録上限:45単位(年間)】 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(126単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・専任教員（講師）1名就任辞退の理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・同上理由により、「精神看護援助論」「精神看護学実習」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・同上理由により、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員等の配置を「講師4」から「講師3」に変更。
- ・専任教員（助教）1名就任の理由により、「看護援助論」「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」「基礎看護技術演習Ⅲ」「看護実践力演習」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・同上理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教2」に、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教4」に変更。
- ・同上理由により、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員等の配置を「助教5」から「助教6」に変更。

【令和2年度】

- ・専任教員（助教）1名就任の理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
- ・同上理由により、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員配置を「助教4」から「助教5」に変更。
- ・同上理由により、「精神看護援助論Ⅱ」「精神看護学実習」の専任教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・同上理由により、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員配置を「助教6」から「助教7」に変更。
- ・保健師教育課程を履修する学生に対し選択科目の幅を広げるため、卒業要件及び履修方法において、履修科目の登録上限を「45単位(年間)」から「48単位(年間)」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
70 科目	40 科目	2 科目	112 科目	70 科目 [0]	40 科目 [0]	2 科目 [0]	112 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{112} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用地/校舎敷地：借用面積21,553.20㎡、期間25年 グラウンド：借用面積8,007㎡、期間25年 運動場用地：校舎敷地と別地（徒歩5分）		
	校 舎 敷 地	20,921.80 ㎡	819.34 ㎡	0 ㎡	21,741.14 ㎡			
	運動場用地	8,007.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	8,007.00 ㎡			
	小 計	28,928.80 ㎡	819.34 ㎡	0 ㎡	29,748.14 ㎡			
	そ の 他	0 ㎡	6,422.22 ㎡	0 ㎡	6,422.22 ㎡			
	合 計	28,928.80 ㎡	7,241.56 ㎡	0 ㎡	36,170.36 ㎡			
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用面積 21,553.20㎡ 期間25年		
		10,071.76 ㎡ (8,561.90 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	10,071.76 ㎡ (8,561.90 ㎡)			
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体	
		4 室	15室	5 室 (補助職員 人)	1 室 (補助職員 人)	0 室 (補助職員 人)		
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		令和2年4月 専任教員（助教）1名を 新規採用のため（2）	
		看護学部 看護学科			22 室			
(5)図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点					
	看護学部	26,400 [1,200] (6,411 [614])	92 [10] (24 [0])	6 [6] (2 [2])	750 (76)	3,699 (3,699)	25 (25)	
	計	26,400 [1,200] (6,411 [614])	92 [10] (24 [0])	6 [6] (2 [2])	750 (76)	3,699 (3,699)	25 (25)	
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		
		740.31㎡		102		40,000		
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		587.42㎡		該当なし		該当なし		
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	300,450千円	450千円	図書購入費	20,000千円	1,000千円	1,000千円
		共同研究費等	4,000千円	4,000千円	設備購入費	150,000千円	0千円	0千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,950千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	千円	千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金収入、補助金収入、雑収入等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（2）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	長 岡 崇 徳 大 学										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
看護学部	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度		
看護学科	4	80	0	320	学士 (看護学)	0.62	0.72	—	平成31		
大学全体	4	80	0	320	—	—	—	—	平成31	新潟県長岡市深 沢町2278番地 8	
大学 の 名 称	該当なし										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
該当なし	年	人	年次 人	人		倍	倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専 教授(学部長)		中村 悦子 (71) (平成31年4月) 博士(医学) リーダーシップ論 キャリアデザインⅢ 看護倫理 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 医療安全論 看護管理論 看護情報論 緩和・ターミナルケア看護論※ 看護課題研究
専 教授		渡邊 克義 (58) (平成31年4月) 4doktor nauk humanistycznych w zakresie historii (ポーランド) 博士(文学) 日本語Ⅳ 歴史と文化 国際ボランティア論※ スタディスキルズ※
専 教授		倉島 幸子 (68) (平成31年4月) 博士(医学) 看護学概論※ 看護援助論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実践実習 看護課題研究
専 教授		金子 史代 (68) (令和2年4月) 博士(学術) 成人看護学概論 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅲ リハビリテーション看護 看護学研究法 統合実践実習 看護課題研究
専 教授		袖山 悦子 (66) (平成31年4月) 博士(学術) 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実践実習 認知症ケア論※ 看護課題研究
専 教授		望月 紀子 (57) (平成31年4月) 博士(看護学) 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実践実習 認知症ケア論※ 看護課題研究
専 教授		加国 正子 (66) (平成31年4月) Master of Science in Nursing (米国) キャリアデザインⅠ チーム医療論※ 小児看護学概論 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 統合実践実習 看護実践力演習 看護課題研究
専 教授		高島 葉子 (66) (平成31年4月) 修士(法学) 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護課題研究 統合実践実習
専 教授		柳原 真知子 (69) (平成31年4月) 修士※(教育学) 母性看護学概論 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護学研究法 統合実践実習 看護課題研究

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専 教授(学部長)		中村 悦子 (72) (平成31年4月) 博士(医学) リーダーシップ論 キャリアデザインⅢ 看護倫理 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 医療安全論 看護管理論 看護情報論 緩和・ターミナルケア看護論※ 看護課題研究
専 教授		渡邊 克義 (59) (平成31年4月) 4doktor nauk humanistycznych w zakresie historii (ポーランド) 博士(文学) 日本語Ⅳ 歴史と文化 国際ボランティア論※ スタディスキルズ※
専 教授		倉島 幸子 (69) (平成31年4月) 博士(医学) 看護学概論※ 看護援助論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実践実習 看護課題研究
専 教授		金子 史代 (69) (令和2年4月) 博士(学術) 成人看護学概論 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅲ リハビリテーション看護 看護学研究法 統合実践実習 看護課題研究
専 教授		袖山 悦子 (67) (平成31年4月) 博士(学術) 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実践実習 認知症ケア論※ 看護課題研究
専 教授		望月 紀子 (58) (平成31年4月) 博士(看護学) 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実践実習 認知症ケア論※ 看護課題研究
専 教授		加国 正子 (67) (平成31年4月) Master of Science in Nursing (米国) キャリアデザインⅠ チーム医療論※ 小児看護学概論 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 統合実践実習 看護実践力演習 看護課題研究
専 教授		高島 葉子 (66) (令和元年10月) 修士(法学) 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護課題研究 統合実践実習
専 教授		柳原 真知子 (70) (平成31年4月) 修士※(教育学) 母性看護学概論 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護学研究法 統合実践実習 看護課題研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専 教授(学部長)		中村 悦子 (73) (平成31年4月) 博士(医学) リーダーシップ論 キャリアデザインⅢ 看護倫理 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 医療安全論 看護管理論 看護情報論 緩和・ターミナルケア看護論※ 看護課題研究
専 教授		渡邊 克義 (60) (平成31年4月) 4doktor nauk humanistycznych w zakresie historii (ポーランド) 博士(文学) 日本語Ⅳ 歴史と文化 国際ボランティア論※ スタディスキルズ※
専 教授		倉島 幸子 (70) (平成31年4月) 博士(医学) 看護学概論※ 看護援助論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実践実習 看護課題研究
専 教授		金子 史代 (70) (令和2年4月) 博士(学術) 成人看護学概論 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅲ リハビリテーション看護 看護学研究法 統合実践実習 看護課題研究
専 教授		袖山 悦子 (68) (平成31年4月) 博士(学術) 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実践実習 認知症ケア論※ 看護課題研究
専 教授		望月 紀子 (59) (平成31年4月) 博士(看護学) 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実践実習 認知症ケア論※ 看護課題研究
専 教授		加国 正子 (68) (平成31年4月) Master of Science in Nursing (米国) キャリアデザインⅠ チーム医療論※ 小児看護学概論 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 統合実践実習 看護実践力演習 看護課題研究
専 教授		高島 葉子 (67) (令和元年10月) 修士(法学) 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護課題研究 統合実践実習
専 教授		柳原 真知子 (71) (平成31年4月) 修士※(教育学) 母性看護学概論 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護学研究法 統合実践実習 看護課題研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	斎藤 まさ子 (65) (令和2年4月) 修士※(法学)
		精神看護学概論 精神看護学実習 統合実践実習 家族看護論 看護課題研究
専	教授	板山 稔 (49) (令和2年4月) 修士(看護学)
		スタディスキルズ※ 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護学研究法 統合実践実習
専	教授	飯吉 令枝 (59) (平成31年4月) 修士(教育学)
		在宅看護学概論 在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 地域包括ケア論 公衆衛生看護学概論※ 公衆衛生看護活動論Ⅰ※ 公衆衛生看護活動論Ⅱ※ 公衆衛生看護支援技術 地域診断論 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 看護課題研究
専	教授	平澤 則子 (60) (令和4年4月) 博士(看護学)
		地域包括ケア論 公衆衛生看護学概論※ 公衆衛生看護活動論Ⅰ※ 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 へき地看護論 看護課題研究
専	教授	田邊 要補 (63) (平成31年4月) 博士(保健学)
		キャリアデザインⅡ スタディスキルズ※ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 統合実践実習 看護課題研究
専	准教授	山崎 達枝 (66) (平成31年4月) 修士(心身健康科学)
		在宅看護学実習 国際ボランティア論※ 災害看護論 災害看護活動論Ⅰ 災害看護活動論Ⅱ 国際看護論 統合実践実習 看護課題研究
専	准教授	広井 貴子 (55) (平成31年4月) 博士(医学)
		成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅲ 統合実践実習 統合実践実習 緩和・ターミナルケア看護論※ 看護課題研究
専	講師	本間 美知子 (67) (平成31年4月) 博士(保健学)
		チーム医療論※ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 地域包括ケア論 統合実践実習 看護課題研究
専	講師	目黒 優子 (46) (平成31年4月) 修士※(保健学)
		成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 統合実践実習 統合実践実習 看護課題研究
専	講師	川内 健三 (48) (平成31年4月) 修士(看護学)
		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 統合実践実習 看護課題研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	斎藤 まさ子 (65) (令和2年4月) 修士※(法学)
		精神看護学概論 精神看護学実習 統合実践実習 家族看護論 看護課題研究
専	教授	板山 稔 (50) (令和2年4月) 修士(看護学)
		スタディスキルズ※ 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護学研究法 統合実践実習
専	教授	飯吉 令枝 (59) (平成31年4月) 修士(教育学)
		在宅看護学概論 在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 地域包括ケア論 公衆衛生看護学概論※ 公衆衛生看護活動論Ⅰ※ 公衆衛生看護活動論Ⅱ※ 公衆衛生看護支援技術 地域診断論 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 看護課題研究
専	教授	平澤 則子 (61) (令和4年4月) 博士(看護学)
		地域包括ケア論 公衆衛生看護学概論※ 公衆衛生看護活動論Ⅰ※ 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 へき地看護論 看護課題研究
専	教授	田邊 要補 (64) (平成31年4月) 博士(保健学)
		キャリアデザインⅡ スタディスキルズ※ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 統合実践実習 看護課題研究
専	准教授	山崎 達枝 (67) (平成31年4月) 修士(心身健康科学)
		在宅看護学実習 国際ボランティア論※ 災害看護論 災害看護活動論Ⅰ 災害看護活動論Ⅱ 国際看護論 統合実践実習 看護課題研究
専	准教授	広井 貴子 (56) (平成31年4月) 博士(医学)
		成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅲ 統合実践実習 統合実践実習 緩和・ターミナルケア看護論※ 看護課題研究
専	講師	本間 美知子 (68) (平成31年4月) 博士(保健学)
		チーム医療論※ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 地域包括ケア論 統合実践実習 看護課題研究
専	講師	目黒 優子 (47) (平成31年4月) 修士※(保健学)
		成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 統合実践実習 統合実践実習 看護課題研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	斎藤 まさ子 (67) (令和2年4月) 修士※(法学)
		精神看護学概論 精神看護学実習 統合実践実習 家族看護論 看護課題研究
専	教授	板山 稔 (51) (令和2年4月) 修士(看護学)
		スタディスキルズ※ 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護学研究法 統合実践実習
専	教授	飯吉 令枝 (60) (平成31年4月) 修士(教育学)
		在宅看護学概論 在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 地域包括ケア論 公衆衛生看護学概論※ 公衆衛生看護活動論Ⅰ※ 公衆衛生看護活動論Ⅱ※ 公衆衛生看護支援技術 地域診断論 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 看護課題研究
専	教授	平澤 則子 (62) (令和4年4月) 博士(看護学)
		地域包括ケア論 公衆衛生看護学概論※ 公衆衛生看護活動論Ⅰ※ 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 へき地看護論 看護課題研究
専	教授	田邊 要補 (65) (平成31年4月) 博士(保健学)
		キャリアデザインⅡ スタディスキルズ※ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 統合実践実習 看護課題研究
専	准教授	山崎 達枝 (68) (平成31年4月) 修士(心身健康科学)
		在宅看護学実習 国際ボランティア論※ 災害看護論 災害看護活動論Ⅰ 災害看護活動論Ⅱ 国際看護論 統合実践実習 看護課題研究
専	准教授	広井 貴子 (57) (平成31年4月) 博士(医学)
		成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅲ 統合実践実習 統合実践実習 緩和・ターミナルケア看護論※ 看護課題研究
専	講師	本間 美知子 (69) (平成31年4月) 博士(保健学)
		チーム医療論※ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 地域包括ケア論 統合実践実習 看護課題研究
専	講師	目黒 優子 (48) (平成31年4月) 修士※(保健学)
		成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 統合実践実習 統合実践実習 看護課題研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		大橋 洋子 (57) 〈平成31年4月〉 修士※（保健学）
		看護援助論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実践演習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		角山 裕美子 (37) 〈平成31年4月〉 修士（看護学）
		基礎看護学実習Ⅱ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実践演習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		伊藤 文子 (48) 〈平成31年4月〉 修士（保健学）
		基礎看護学実習Ⅱ 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護課題研究 統合実践実習
専 助教		沼野 博子 (47) 〈平成31年4月〉 修士（保健学）
		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 統合実践演習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		駒形 三和子 (54) 〈平成31年4月〉 修士（保健福祉学）
		在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅰ※ 公衆衛生看護活動論Ⅱ※ 公衆衛生看護支援技術 地域診断論 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		古澤 弘美 (58) 〈平成31年4月〉 修士（看護学）
		在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 公衆衛生看護支援技術 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		大崎 美奈子 (43) 〈平成31年4月〉 修士（看護学）
		看護援助論 基礎看護技術演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実践演習 看護課題研究 統合実践実習 看護実践力演習
専 助教		藤田 勇 (56) 〈令和2年4月〉 修士（心身健康科学）
		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 統合実践実習 看護課題研究
兼任 講師		張 坤 (40) 〈平成31年4月〉 博士（工学）
		情報処理法 情報活用法
兼任 講師		渡部 洋一郎 (54) 〈平成31年4月〉 教育学修士
		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 問題解決法
兼任 講師		石岡 精三 (65) 〈平成31年4月〉 修士（文学）
		英語Ⅰ
兼任 講師		アレックス ロクティオノフ (49) 〈令和元年10月〉 専門学校卒
		英語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		大橋 洋子 (58) 〈平成31年4月〉 修士※（保健学）
		看護援助論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実践演習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		角山 裕美子 (38) 〈平成31年4月〉 修士（看護学）
		基礎看護学実習Ⅱ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実践演習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		伊藤 文子 (49) 〈平成31年4月〉 修士（保健学）
		基礎看護学実習Ⅱ 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護課題研究 統合実践実習
専 助教		沼野 博子 (48) 〈平成31年4月〉 修士（保健学）
		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 統合実践演習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		駒形 三和子 (55) 〈平成31年4月〉 修士（保健福祉学）
		在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅰ※ 公衆衛生看護活動論Ⅱ※ 公衆衛生看護支援技術 地域診断論 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		古澤 弘美 (60) 〈平成31年4月〉 修士（看護学）
		在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 公衆衛生看護支援技術 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		大崎 美奈子 (44) 〈平成31年4月〉 修士（看護学）
		看護援助論 基礎看護技術演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実践演習 看護課題研究 統合実践実習 看護実践力演習
専 助教		藤田 勇 (56) 〈令和2年4月〉 修士（心身健康科学）
		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 統合実践実習 看護課題研究
兼任 講師		張 坤 (41) 〈平成31年4月〉 博士（工学）
		情報処理法 情報活用法
兼任 講師		渡部 洋一郎 (55) 〈平成31年4月〉 教育学修士
		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 問題解決法
兼任 講師		石岡 精三 (66) 〈平成31年4月〉 修士（文学）
		英語Ⅰ
兼任 講師		アレックス ロクティオノフ (50) 〈令和元年10月〉 専門学校卒
		英語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		大橋 洋子 (59) 〈平成31年4月〉 修士※（保健学）
		看護援助論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実践演習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		角山 裕美子 (39) 〈平成31年4月〉 修士（看護学）
		基礎看護学実習Ⅱ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実践演習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		伊藤 文子 (50) 〈平成31年4月〉 修士（保健学）
		基礎看護学実習Ⅱ 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護課題研究 統合実践実習
専 助教		沼野 博子 (49) 〈平成31年4月〉 修士（保健学）
		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 統合実践演習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		駒形 三和子 (56) 〈平成31年4月〉 修士（保健福祉学）
		在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅰ※ 公衆衛生看護活動論Ⅱ※ 公衆衛生看護支援技術 地域診断論 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		古澤 弘美 (61) 〈平成31年4月〉 修士（看護学）
		在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 公衆衛生看護支援技術 公衆衛生看護活動展開論実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 統合実践実習 看護課題研究
専 助教		大崎 美奈子 (44) 〈平成31年4月〉 修士（看護学）
		看護援助論 基礎看護技術演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実践演習 看護課題研究 統合実践実習 看護実践力演習
専 助教		藤田 勇 (56) 〈令和2年4月〉 修士（心身健康科学）
		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 統合実践実習 看護課題研究
兼任 講師		張 坤 (42) 〈平成31年4月〉 博士（工学）
		情報処理法 情報活用法
兼任 講師		渡部 洋一郎 (56) 〈平成31年4月〉 教育学修士
		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 問題解決法
兼任 講師		石岡 精三 (67) 〈平成31年4月〉 修士（文学）
		英語Ⅰ
兼任 講師		アレックス ロクティオノフ (51) 〈令和元年10月〉 専門学校卒
		英語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師	中国語	黎 子郡 (63) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
兼任 講師	韓国語	黄 仁祚 (46) ＜令和4年4月＞ 修士（現代文化）
兼任 講師	地域活動論 福祉と保障	佐藤 和也 (56) ＜平成31年4月＞ 学士（社会学）
兼任 講師	コミュニケーション論	五十嵐 紀子 (46) ＜令和元年10月＞ 修士（文学）
兼任 講師	発達心理学	宮崎 隆穂 (46) ＜平成31年4月＞ 修士（心理学）
兼任 講師	健康スポーツⅠ 健康スポーツⅡ	塩野谷 明 (59) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
兼任 講師	経済と政策	鯉江 康正 (60) ＜令和4年10月＞ 修士（経済学）
兼任 講師	自然環境論	濁川 明男 (71) ＜令和元年10月＞ 教育学士
兼任 講師	日本国憲法	里見 佳香 (38) ＜平成31年4月＞ 修士（国際公共政策）
兼任 講師	看護教育のための生物学 看護教育のための化学	野村 由紀子 (44) ＜平成31年4月＞ 修士（理学）
兼任 講師	人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 人体の構造と機能Ⅲ 病理病態学	浅見 直 (71) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	栄養学	小島 留美子 (49) ＜令和元年10月＞ 短期大学
兼任 講師	感染免疫学	笠井 大輔 (39) ＜令和2年4月＞ 博士（工学）
兼任 講師	薬理学	下田 勝弘 (56) ＜平成31年4月＞ 学士（薬学）
兼任 講師	疾病治療Ⅰ	永井 恒雄 (66) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅱ※	佐藤 和弘 (57) ＜令和2年4月＞ 学士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅱ※	齋藤 興信 (67) ＜令和2年4月＞ 学士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅲ※	福居 和人 (44) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅲ※	丸山 晋司 (63) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅳ※	伊藤 正一 (80) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅳ※	星野 正 (63) ＜令和2年10月＞ 学士（医学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師	中国語	黎 子郡 (64) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
兼任 講師	韓国語	黄 仁祚 (47) ＜令和4年4月＞ 修士（現代文化）
兼任 講師	地域活動論 福祉と保障	佐藤 和也 (57) ＜平成31年4月＞ 学士（社会学）
兼任 講師	コミュニケーション論	五十嵐 紀子 (47) ＜令和元年10月＞ 修士（文学）
兼任 講師	発達心理学	宮崎 隆穂 (47) ＜平成31年4月＞ 修士（心理学）
兼任 講師	健康スポーツⅠ 健康スポーツⅡ	塩野谷 明 (60) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
兼任 講師	経済と政策	鯉江 康正 (61) ＜令和4年10月＞ 修士（経済学）
兼任 講師	自然環境論	濁川 明男 (72) ＜令和元年10月＞ 教育学士
兼任 講師	日本国憲法	里見 佳香 (39) ＜平成31年4月＞ 修士（国際公共政策）
兼任 講師	看護教育のための生物学 看護教育のための化学	野村 由紀子 (45) ＜平成31年4月＞ 修士（理学）
兼任 講師	人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 人体の構造と機能Ⅲ 病理病態学	浅見 直 (72) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	栄養学	細野 留実 (55) ＜令和元年10月＞ 修士（栄養学）
兼任 講師	感染免疫学	笠井 大輔 (40) ＜令和2年4月＞ 博士（工学）
兼任 講師	薬理学	下田 勝弘 (57) ＜平成31年4月＞ 学士（薬学）
兼任 講師	疾病治療Ⅰ	永井 恒雄 (67) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅱ※	佐藤 和弘 (58) ＜令和2年4月＞ 学士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅱ※	齋藤 興信 (68) ＜令和2年4月＞ 学士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅲ※	福居 和人 (45) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅲ※	丸山 晋司 (64) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅳ※	伊藤 正一 (81) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅳ※	星野 正 (64) ＜令和2年10月＞ 学士（医学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師	中国語	黎 子郡 (65) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
兼任 講師	韓国語	黄 仁祚 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（現代文化）
兼任 講師	地域活動論 福祉と保障	佐藤 和也 (58) ＜平成31年4月＞ 学士（社会学）
兼任 講師	コミュニケーション論	五十嵐 紀子 (48) ＜令和元年10月＞ 修士（文学）
兼任 講師	発達心理学	宮崎 隆穂 (48) ＜平成31年4月＞ 修士（心理学）
兼任 講師	健康スポーツⅠ 健康スポーツⅡ	塩野谷 明 (61) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
兼任 講師	経済と政策	鯉江 康正 (62) ＜令和4年10月＞ 修士（経済学）
兼任 講師	自然環境論	濁川 明男 (73) ＜令和元年10月＞ 教育学士
兼任 講師	日本国憲法	里見 佳香 (40) ＜平成31年4月＞ 修士（国際公共政策）
兼任 講師	看護教育のための生物学 看護教育のための化学	野村 由紀子 (46) ＜平成31年4月＞ 修士（理学）
兼任 講師	人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 人体の構造と機能Ⅲ 病理病態学	浅見 直 (73) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	栄養学	渡邊 令子 (71) ＜令和元年10月＞ 博士（学術）
兼任 講師	感染免疫学	笠井 大輔 (41) ＜令和2年4月＞ 博士（工学）
兼任 講師	薬理学	佐合 絵里 (59) ＜令和2年4月＞ 学士（薬学）
兼任 講師	疾病治療Ⅰ	伊藤 正洋 (51) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅱ※	佐藤 和弘 (59) ＜令和2年4月＞ 学士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅱ※	富所 隆 (66) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅲ※	福居 和人 (46) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅲ※	丸山 晋司 (65) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅳ※	伊藤 正一 (82) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
兼任 講師	疾病治療Ⅳ※	星野 正 (65) ＜令和2年10月＞ 学士（医学）

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	北島 宗雄 (62) ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		統計分析法
兼任	講師	渡部 和成 (63) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
		疾病治療論Ⅴ※
兼任	講師	丸山 敬子 (64) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		看護関係法規 健康教育論
兼任	講師	小山 歌子 (65) ＜平成31年4月＞ 博士（保健学）
		公衆衛生看護学概論※ チーム医療論※
兼任	講師	郷堀 ヨゼフ (38) ＜令和元年10月＞ 博士（学術）
		生命倫理学 民族と宗教
兼任	講師	宮川 公子 (70) ＜令和元年10月＞ 博士（医学）
		保健医療福祉行政論 公衆衛生学
兼任	講師	鈴木 翼 (35) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
		保健統計学 疫学
兼任	講師	渡邊 有紀恵 (39) ＜令和元年10月＞ 博士（言語学）
		日本語Ⅲ
兼任	講師	三木 健司 (54) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
		疾病治療論Ⅴ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	北島 宗雄 (63) ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		統計分析法
兼任	講師	渡部 和成 (64) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
		疾病治療論Ⅴ※
兼任	講師	丸山 敬子 (65) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		看護関係法規 健康教育論
兼任	講師	小山 歌子 (66) ＜平成31年4月＞ 博士（保健学）
		公衆衛生看護学概論※ チーム医療論※
兼任	講師	郷堀 ヨゼフ (39) ＜令和元年10月＞ 博士（学術）
		生命倫理学 民族と宗教
兼任	講師	宮川 公子 (71) ＜令和元年10月＞ 博士（医学）
		保健医療福祉行政論 公衆衛生学
兼任	講師	鈴木 翼 (36) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
		保健統計学 疫学
兼任	講師	渡邊 有紀恵 (40) ＜令和元年10月＞ 博士（言語学）
		日本語Ⅲ
兼任	講師	三木 健司 (55) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
		疾病治療論Ⅴ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	北島 宗雄 (64) ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		統計分析法
兼任	講師	渡部 和成 (65) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
		疾病治療論Ⅴ※
兼任	講師	丸山 敬子 (66) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		看護関係法規 健康教育論
兼任	講師	小山 歌子 (67) ＜平成31年4月＞ 博士（保健学）
		公衆衛生看護学概論※ チーム医療論※
兼任	講師	郷堀 ヨゼフ (40) ＜令和元年10月＞ 博士（学術）
		生命倫理学 民族と宗教
兼任	講師	宮川 公子 (72) ＜令和元年10月＞ 博士（医学）
		保健医療福祉行政論 公衆衛生学
兼任	講師	鈴木 翼 (37) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
		保健統計学 疫学
兼任	講師	渡邊 有紀恵 (41) ＜令和元年10月＞ 博士（言語学）
		日本語Ⅲ
兼任	講師	三木 健司 (56) ＜令和2年10月＞ 博士（医学）
		疾病治療論Ⅴ※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実（実）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・川内健三講師就任辞退。後任未定。

【令和元年度】

- ・家庭の事情により、高島葉子教授の就任が平成31年4月から令和元年10月に遅延。
- ・小島留美子講師辞任により、細野留実講師に変更（担当授業科目名：栄養学）
- ・大崎美奈子助教就任。平成31年1月教員審査済。

【令和2年度】

- ・令和2年4月藤田勇助教就任、令和元年11月教員審査済（川内健三講師辞退に伴う補充）
- ・細野留実講師辞任により、渡邊令子講師に変更（担当授業科目名：栄養学）
- ・下田勝弘講師辞任により、佐合絵里講師に変更（担当授業科目名：薬理学）
- ・永井恒雄講師辞任により、伊藤正洋講師に変更（担当授業科目名：疾病治療論Ⅰ）
- ・齋藤興信講師辞任により、富所隆講師に変更（担当授業科目名：疾病治療論Ⅱ）

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
19	10
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
14	2	4	5	25	10	13	2	3	7	25	2
(9)	(2)	(3)	(6)	(20)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
14	2	3	7	26	10	14	2	3	7	26	10
[0]	[0]	[△]	[2]	[1]	[0]	[0]	[0]	[△]	[2]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70	4	8
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{26}{25} = \boxed{104} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{25} = \boxed{16} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{10}{10} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	講師	川内 健三	H30.11	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	H30.11家庭の諸事情のため就任辞退（元）						
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①							
				必修	精神看護援助論Ⅱ	①							
				必修	精神看護学実習	①							
				必修	統合実践実習	①							
				必修	看護課題研究	①							
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
1	人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	6	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計（F）					後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）		
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
1	人	必修	6	科目	必修	6	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	6	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{25} = 4\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【大学の所見】 専任教員・川内健三講師について、当教員が担当する授業科目は1年次の『基礎看護学実習Ⅰ』、及び2年次の『基礎看護学実習Ⅱ』の2科目であり、これに関しては、平成31年1月の教員資格審査において、当該科目『可』の判定を受けた専任教員(助教)を新規採用しており、補充可能と考えている。なお川内講師が担当予定の『精神看護援助論Ⅱ』『精神看護学実習』『統合実践実習』『看護課題研究』の4科目については、令和元年11月の教員資格審査において、当該科目『可』の判定を受けた専任教員(助教)を新規採用しており、補充可能と考えている。 【学生への周知方法】 開学時に配付の「学生便覧・2019年度入学者用」、本年度に配付の「学生便覧・2020年度入学者用」に、教育課程表及び担当教員名を記載。
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	・設置の趣旨・目的が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	遵守事項 ・遵守事項を踏まえ、開学初年度は4年制大学にふさわしい教育研究活動を実践すべく、教授会をはじめ、学内の専門委員会が年間計画と目標を定め、学生や地域に対し活動を行った。	履行中 ・開学初年度の結果を踏まえ、それぞれの委員会がPDCAサイクルに沿って、本年度の新しい目標と計画を策定し、実行していく。また、必要に応じ委員会同士が連携して活動することで教育研究水準を向上させるように努める。
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	・入学定員未充足の改善に努めること。(看護学部看護学科)	指摘事項 (改善) ・広報活動に力を入れ、前年度より充足率は改善したものの、未だ充足には至っていない為、引き続き改善に努める。	履行中 ・マスメディアを利用して、オープンキャンパス参加者の拡大と大学の認知度を高める ・昨年度の高校訪問を分析し、訪問時期や回数などを再検討する ・ホームページのリニューアルを実施しイメージアップを図る ・出前授業を実施し、看護大学としての認知度を高める ・高校教員向けの説明会を実施し、受験生に対しての認知度を高める

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
【教育課程等の概要】 ・卒業要件及び履修方法 履修科目の登録上限：45単位（年間） 【設置の趣旨等を記載した書類】 ク 入学者選抜の概要 3 選抜方法 3) 一般選抜試験（前期・後期） 一般選抜試験は、学力検査として国語、英語を必修科目とし、数学又は生物から1科目を選択する方式とし、入学志願者の学習能力を合理的に判定する。 4) 大学入試センター試験（前期・後期） 大学入試センター試験は、国語及び英語Ⅰを必修科目として、理科、地歴又は公民、数学から1科目を選択のうえ、計3科目が一定の学力水準に達しているか否かの判定に用いることとする。入学者の受入れ方針に基づく、「自ら進んで学ぼうとする人」等については、面接により適切に判断することとしている。	保健師教育課程を履修する学生の幅広い知識の獲得を目的として、選択科目の幅を広げるため、履修規程を改正し、履修科目の登録上限を45単位から48単位へ変更することとした。今後の課題は、1年次・2年次の履修が集中しないように学生へ指導する。 ク 入学者選抜の概要 3 選抜方法 3)、4) 本学のアドミッションポリシーを踏襲しつつ、より多様な能力を持った学生の確保を目的として、一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜において、英語を必修科目から選択科目に変更することとした。これにより、学生の能力・適性を多面的に判定することが可能で、英語については、入学後の教育で充た可能と判断した。 また、大学入学共通テスト利用選抜の学生負担軽減のため、面接を廃止することとした。なお、本学アドミッションポリシーの「自ら進んで学ぼうとする人」の判断については、出願書類の一つである『志望理由書』において確認可能と判断した。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 「長岡崇徳大学FD委員会規程」に基づき、委員7名で構成されたFD委員会を設置している。 (別添資料1 参照) b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） FD委員会 原則毎月1回、年間計15回開催した。うち4回は出張や罹患のため止むを得ず欠席した委員があり、後日議事録等で報告した。 c 委員会の審議事項等 本学のFD委員会においては以下の事項を所掌している。 (1) 教育研究活動改善の方策に関すること (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関すること (3) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関すること (4) FDに関する教員への各種コンサルティングに関すること (5) その他FDに関連すること また、以上の審議事項で決定した事項に関しては、教務委員会との調整を図りながら検討、実施する。

② 実施状況

a 実施内容

1. F Dニーズについて教員にアンケートを実施
2. 学生による授業評価（授業アンケート）の実施
3. 効果的な実習指導方法の検討
4. 教員相互による授業評価（ピアレビュー）を実施
5. F D委員会企画として、シミュレーション教育に関する講演、研修会を実施
6. F D委員会活動に関する教員にアンケートを行い今年度の活動を評価する

b 実施方法

1. 教員にF Dニーズ調査を実施した結果、必要性の高かった教育力向上のための研修会を企画、実施した。
2. 授業アンケートを実施し、結果を次年度授業改善に活かす。
3. 実習指導についてのF D研修会を実施した。
4. 公開授業・見学の実施要領を作成し、必修科目で専任教員が担当する科目について、授業評価（ピアレビュー）を実施した。
5. シミュレーション教育を進めていく上で必要な基本的知識、演習の展開について、講演と研修により共通理解を図った。
6. F D委員会活動に関する自由記述式のアンケートを実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. F D委員会主催の研修会を企画し、全教員に向けて計5回実施した。

第1回 シミュレーション教育講演会	令和元年8月29日	参加者： 21 名
第2回 災害教育におけるシミュレーション教育の実際	令和元年9月13日	参加者： 21 名
第3回 地域包括ケア学習会	令和元年9月20日	参加者： 20 名
第4回 教育目標共有化学習会	令和元年9月26日	参加者： 21 名
第5回 超少子高齢化での私立大学の使命	令和2年2月28日	参加者： 33 名

（教員21名、事務職12名）

2. 前期19科目、後期15科目の学生によるアンケートを実施した。
前期分の結果はキャンパスマジック（教務システム）に掲載した。
3. F D研修会テーマ「看護教員として実習における学生の学びを支援するとは何か」 令和2年3月23日
実習指導についてF D研修会案内資料、実習指導者研修会のグループ討議記録を基に実施した。参加者17名
4. 必修科目「基礎看護技術演習Ⅱ」の1科目のみの実施となった。ピアレビューの結果は今後の授業改善に役立てるため、科目担当者にフィードバックした。
5. （再掲）シミュレーション教育講演会 令和元年8月29日 参加者： 21 名
（再掲）災害教育におけるシミュレーション教育の実際 令和元年9月13日 参加者： 21 名
6. F D委員会活動に関するアンケートを実施した。回収率は81.8%（18/22名）で、結果を全教員にフィードバックした。回答率が81.8%と高かったことはF D活動への参加率の高さと連動しており、教員のF D活動に対する意識化が図れた。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

いずれの取り組みも、本学の教育改善・授業改善に資する内容であり、参加教員は授業改善に反映させている。年5回実施したF D研修会は、企画数、内容ともに大学教員としての意識向上、教育力の向上に寄与するものとする。これらの結果を各委員会活動、各領域の教育計画に反映させている状況である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業評価アンケートを作成し、前期19科目、後期15科目の学生によるアンケートを実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートについては、当該授業担当者の授業改善のための参考に資するべく、個別の評価結果と学生の自由記述内容を、学内全教員に通知している。また、学生のフィードバックについては、キャンパスマジック（教務システム）に公開した。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別添資料2 参照

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

学長諮問委員会として自己点検・評価委員会（9名）を置き、評価の基本方針の策定、実施、結果を受けて、教育研究水準の向上ならびにそれぞれの活動の改善に努めることとしている。

総合的な自己点検・評価は、完成年度翌年の令和5年度に行い、その結果は、令和5年度中に公表する予定である。完成年度までは、各年度ごとに活動実績をまとめ、令和2年度より公表することとしている。

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開する

③ 認証評価を受ける計画

完成年度以降の早い時期に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受けるべく、今後、学内で検討を進める。開学3年目の令和3年度を目途に中間報告としてまとめ、外部有識者による評価を受けることとしている。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

○長岡崇徳大学 FD委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、長岡崇徳大学（以下「本学」という。）教授会規程第7条第7号の規定に基づき、本学にFD（Faculty Development）（以下「FD」という。）委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者（以下「委員」という。）をもって構成する。

(1) 各専門領域から選出された教員 各1名

(2) 教務・学生課長

2 委員会に委員長を置き、学長が指名した者をもって充てる。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた時は、委員を補うことができる。この場合の任期は、前任者の残存期間とする

(審議事項)

第4条 本委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 教育研究活動改善の方策に関すること

(2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関すること

(3) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関すること

(4) FDに関する教員への各種コンサルティングに関すること

(5) その他FDに関連すること

(議事)

第5条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席委員の過半数をもって議事を決する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

4 委員会は、必要に応じ委員以外のものを委員会に出席させ、意見を聞くことができる。

(実施事項の運用)

第6条 第4条の審議事項で決定した事項に関しては、教務委員会との調整を図りながら検討、実施するものとする。

(事務)

第7条 この委員会の事務は、教務・学生課において処理する。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、教授会の議決を経て、学長が決定する。

附則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

令和 2 年 5 月 1 日

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

長岡崇徳大学

1. 長岡崇徳大学設置の趣旨・目的

本学は、資質・能力の高い看護師の養成、看護教育の高等教育化及び教育内容の充実、新潟県における看護師の安定的な確保に向けた人材養成に対する強い要望・ニーズに応えられる開かれた大学として平成 31 年 4 月に開学した。

本学は、建学の理念を踏まえたうえで、養成する人材像を「豊かな人間性と高い倫理観をもつ人材」、「看護実践力のある人材」、「連携・協働できる人材」、「探究力のある人材」、「地域的・国際的視野のある人材」と定め、教育目的を「生命の尊重を基盤とした豊かな人間性と高い倫理観の涵養を図るとともに、専門的知識・技術を修得させ、科学的根拠に基づいた判断力と問題解決能力を養い、多職種と連携・協働して地域社会における保健・医療・福祉の向上に貢献できる看護専門職者を育成する」としている。

2. 設置の趣旨・目的の達成状況

1) 教育課程・学生支援について

前述の教育目的を達成するための教育課程編成は、学年進行に伴って「基礎教育科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分しており、それぞれ本学のディプロマ・ポリシーを達成するために対応した教育を有機的に連動し、体系的に学習できるよう編成した。また、「地域包括ケアシステム」の考え方を看護の専門科目の支持基盤として位置づけ、あらゆる世代、あらゆる場において看護が展開される科目内容としている。

本学の学生支援体制は、学業や学生生活全般について助言指導の役割をもつアカデミックアドバイザー制を導入し、履修指導・学習指導・生活相談等を行っている。また、学生からの要望・意見を把握するための「学生意見箱」の設置や、学生ポータルサイトからの投書に対して、学生委員会から回答するなどの支援を行っている。

推薦入試合格者（入学予定者）に対し、学習の習慣化および基礎学力の向上を目的に教材を用いて入学前教育を実施している。

2) 学生の確保について

開学後初となる令和 2 年度入学者選抜試験では、「目標志願者数 120 人以上」を目指し、入試委員会・広報委員会と協同で学生募集活動を行った。結果は、定員 80 名に対し 93 名の志願者（1.16 倍）があったが、最終的に 58 名の入学者数に留まった。区分別にみると、

12月までのAOおよび学校推薦志願等が42人(目標の-18人、70%)、一般選抜等が51人(目標の-9人、85%)であった。原因分析としては、開学初年度で県内の高校生や保護者の認知度が低く評価が定まっていないことや、同じ新潟県中越地域に看護専門学校が2校新設され競合していることなどが主な要因と考えている。今後の学生募集活動においては、本学設置の趣旨で述べている3つのポリシーを強調しながら多様な受験生確保に努めていくこととする。

3. 総括評価・所見

以上のように、現段階では本学の設置の趣旨・目的は設置計画に基づいて計画的に実施されているが、学生確保の面においては定員未充足となっており、多数の学生を確保するため、本報告書の「6 附帯事項に対する履行状況等」において記載した今後の実施計画を着実に実行していくこととする。

以上